



ザルツブルグ古城



永原 誠 画

燎原文芸	新年のごあいさつ
黒住嘉輝	光華寮
編集後記	中国人留学生の戦後史――
西谷宣雄	自衛官の自殺増加について
陶堤士	
	編集委員会

新年のごあいさつ

旧年はイラク戦争や総選挙での護憲勢力の後退そして自衛隊のイラク派遣決定等、現代史の一画期ともいえそうな重大な事態がつづきました。このような情勢をいかに生きるべきか、日本の国民にいま深刻な課題がつきつけられたといわざるをえません。後世に悔いをのこさないための行動の指針が求められています。

「京都の民主運動史を語る会」は、特定の政治的主張をするための団体ではありません。しかし、民主運動史の経験を語りつぎ記録する事業が現在と未来の運動のためにささやかな参考となることを期待しているものです。

この号は二〇〇四年の新春とともに第一五〇号という記念すべき号となりました。われわれも志をあらたにしてこれからもつとめるつもりです。皆さまの御支援をお願い申し上げます。

たが、東北大学を第一志望に公言したつもりが、京大から合格通知が来てしまった。そして、光華寮入りとの深い関わりが始まった。

光華寮入り

国の中層からか、京大は中国留学生に集合教育を施すことになり、当時の大学新聞（昭和二〇、五、二一）はその模様を載せている。

中華民国及び南方諸地域留学生は、それぞれ所属学部長に引見され、……

数次の学部長会議から具体的な内容が決定、教育協議会が出来上がったという。しかし、我々にはその教育のプログラムが示されたことではない。

留学生補導に万全であるが、これには、表向きと裏の部分があり、集団指導といいながら、留学生には監視を怠らなかつたことが、その筋の内部資料にあつた。悪名高い特高は始めから寮にいるわれわれの周辺に廻しものを配置して、思想動向を探り、普通に談笑していたコツク、洗濯屋までも、油断できなかつた。今でもこの人たちの顔は目に浮かぶが、一体誰が任命し、なにをしたか、皆目判らずじまいである。

光華寮——中國人留學生の戰後史

陶堤十

編集委員会

二〇〇四年
元旦

はじめに
は化の取り入れがうまく、翻訳がはやく、地理的にも便利という理由からであった。京都（帝国）大学は以前からこれらの中国留学生との関わりは深かつた。

留学生の補導について、鉄筋五階地下一階の共同住宅を借り、万全の設備を加え、寮長、寮主事、寮主席など専任され、それぞれ大東亜建設の熱意に燃えて新生活の第一歩をふみ出したとあり、京大の偉い名前がズラリ並んでいますが、目にかかるない先生方が多かった。

宮城遙拜、万歳三唱、高級軍人官僚の時局講演、戦時中、集合教育ともなれば、ありそうな行事儀式のたぐいはあつたのか、私は覚えていない。何を考えているか判断しない中国留学生にそもそも意味

在留外国人 管下（京都）在
留外国人ハ総計四六五名ニシテソ
ノ内訳ハ欧米人三四名 中華民国
人 三八九名 （留学生 一三五
名 華僑二五四名）満州国人一五
名（大学講師二名）南方留学生二
七名京都関係、留学生中其ノ八十
%ハ京大に……留学生集団教育実
施ニ依リ満州国留学生医科系学生
ヲ除キ東北帝大二転ジ中国留学生
（主トシテ東京各大学ヨリ）及南
方留学生（主トシテ新入学生）ヲ
受ケ入レ……目下集団教育ヲ実施
シツツアルガ之等留学生ハ何レモ
表面的ニハ親日的態度ヲ持スルト

燎 原

雖モ個人主義的觀念強ク満支留学
生中ニハ今尚帝國ノ真意ノ曲解根
強キ反滿抗日思想ヲ抱持シ居ル疑
濃厚ナルモノモアル外戰局ノ推移
ト敵襲ノ頻度化スルナニ伴イ、其
ノ利己的……（判讀難しい）……
觀点ニ基ヅク（？）図ラントスル
モノノ漸増シツツアリ。」

この頁に統いて、華僑、強制連
行された華人（中國人）、朝鮮人
についても、内務省警保局の極秘
扱いの詳しい記述もあった。

中国各地から来た寮生たち
建築当時は斜面にあつて今出川
通りを見下ろし、薦に包まれたこ
の建物はちょっとモダンであり、

目立つ存在で、建築家ブルーノー
の本に出ていて、名建築に数えら
れていたらしい。戦況はますます
深刻な様相のなか、入寮式もおわ
り、羽田総長が命名式で揮豪した
看板がある玄関から、百人近い中
国留学生が集まってきた。顔も少
し判りかけると、自然にグループ
が見えてくる。中国各地から来た、
初対面の集まりである。高校（旧
制）グループ、日本語学校の東亜
グループ、広東グループ、北方閥、
南方閥、それから華僑学生、私共
兄弟のように母の国にきた者。笈
を負つて渡日した勉強家、わずか

の社会運動をする者、なんやら軍
閥地図のようでもあり、県人会の
ようでもあり、百花撩乱である。
さすがに暴力専門は私の周囲には
ない。見かけは紳士風のなか、し
たかな生活力はこれから培かわ
れるのだ。寮の廊下、食堂、風呂
場では異なる地方語が聞かれるが、
一般に通ずる用語はやはり日本語
で、ケンカなどの罵語のたぐいも
日本語である。これだけが確かな
言葉だ。

寮生活は官費も不規則でジリ貧
のなか、最低限のレベルから始ま
った。

大学入学

原爆、つづく敗戦の四ヶ月前の
ことである。私は医学部の講義に
なんとも不安をもちらながらも期
待をもつて出席をはじめた。日本
各地への爆撃に通過する警報サイ
レンが、時々鳴ったが、なぜか京
都は重苦しい空気を残して通り
していく。

京大は戦場に出せない外国留学
生か、病弱な職員学生の留守役で
支えられて、どこもヒツソリして
いた。医学部の学生講義だけは、
不足していた軍医養成に追われ、
ピッヂを上げ、基礎医学よりは、
すぐに役に立つ戦陣医学の修練に

入ろうとしていた。日本の医学生
も徴兵は延期されていたのである。
さて、戦局の傾くにつれ、一般
の食糧事情は悪くなり、腹がへつ
てはのたとえ、講義を続けるのが
苦しくなつたのである。学部は週
単位の長期休講を繰返えし、腹を
空かせた学友たちは、親許に帰り、
セッセッと食つては体力をつけ、
学生食堂へ戻ってきたのである。
すると血色は回復し、体重も増え
てくるが、やはりジリ貧にもどる。
二ヶ月を怖れ、北白川の、とある
家に身を寄せ、ヒソッと過ごした。
関東大震災の暴徒の虐殺事件、外
地の日本兵の振舞、警察、憲兵、
特高の連想に怯えたのであった。
寮の連中も表には出なかつたよう
だ。目にとめた街に歩く一人の女
性が、モンペでなくスカートだつ
たのをみて、どういうわけか気が
ぬけるような安堵を感じた。戦争
は本当に終わつたのだろうか、こ
こには日本官憲の姿もなく緊張し
た空気はなかつた。

八月一五日の陛下の重大放送は
どういうわけか、さっぱり思い出
せない。

一夜にして寮生は戦勝国民

当然ながら中国代表団は戦勝國
の一代表として東京にやつてきた、
日本人にとつては、一九四一年以
降は対日戦に米国その外が加わっ
たことで、対中国一国のみの戦争
ではなく、太平洋戦争の一部みた
ルであった。

原爆投下、続いて終戦
入ろうとしていた。日本の医学生
も徴兵は延期されていたのである。

さて、戦局の傾くにつれ、一般
の食糧事情は悪くなり、腹がへつ
てはのたとえ、講義を続けるのが
苦しくなつたのである。学部は週
単位の長期休講を繰返えし、腹を
空かせた学友たちは、親許に帰り、
セッセッと食つては体力をつけ、
学生食堂へ戻ってきたのである。
すると血色は回復し、体重も増え
てくるが、やはりジリ貧にもどる。
二ヶ月を怖れ、北白川の、とある
家に身を寄せ、ヒソッと過ごした。
関東大震災の暴徒の虐殺事件、外
地の日本兵の振舞、警察、憲兵、
特高の連想に怯えたのであった。
寮の連中も表には出なかつたよう
だ。目にとめた街に歩く一人の女
性が、モンペでなくスカートだつ
たのをみて、どういうわけか気が
ぬけるような安堵を感じた。戦争
は本当に終わつたのだろうか、こ
こには日本官憲の姿もなく緊張し
た空気はなかつた。

八月一五日の陛下の重大放送は
どういうわけか、さっぱり思い出
せない。

八月一五日の陛下の重大放送は
どういうわけか、さっぱり思い出
せない。

いに映り、中国が戦勝国という事実はひどく薄められていた。日中戦はこの戦争の最も大きな部分で、中国はひどい人的被害を被りながら、日本に決定的な消耗を強い、勝利に導いて、日本が負けたときにはマカオ、香港、アモイを残すものの長い長い半植民地の地位から事実上解放された。しかし、国内の解放戦争はまだ終結したわけではなく、慘勝ともいうべきであった。

留学生は大部分、日本占領地から派遣された官費生だったので、独立した浮草のような存在になり、自ら生きるみちを切り開かねばならなかつた。

そこでまず、寮生は留日同学会委員会を組織し、京都の華僑団体との連絡のもとに情報を交換し、新しい身分証明書作りからはじめた。

一部の、とくに台湾出身や華僑青年たちは長年の日本統治のもとで抑圧的な生活を強いられ、祖国復帰に大きな解放感を味わい、その反動で一部の人々は国民党の党徽のある身分証明書を持つて京阪神地区にある日本の軍倉庫や専売局から物資やタバコを運び出し、分配して、さらにヤミ市に流した。これは留学生ばかりではないが、

勝利に導いて、日本が負けたときにはマカオ、香港、アモイを残すものの長い長い半植民地の地位から事実上解放された。しかし、国内の解放戦争はまだ終結したわけではなく、慘勝ともいうべきであった。

日本の敗戦で中国は形の上では戦勝国になつて、やつと、日本にいるわれわれの自由度も緩み、生活すべて変わりだした。しかし食糧事情はさらに逼迫した。それまで植民地から食糧を少しでも収奪つた。

留学生は大部分、日本占領地から派遣された官費生だったので、独立した浮草のような存在になり、自ら生きるみちを切り開かねばならなかつた。

連合国人か、第三国人

日本を事実上占領しているアメリカと連合国軍であつたが、日本が倒れて在日中國人、朝鮮人、満州留学生、台灣人と、抑圧されていた人々が解放され、一時的に同列に立つた。日本人には彼らに負けたのではない。占領者みなに振る舞つてゐるが、摩擦を起こすことはできないので、蔑みの意味をこめて第三国人といつた。この言葉はマスコミでよく使われたが、ずっとあと、日本主要新聞の協定で民族差別語として、使わないことが決まつた。つまり日本に住む

解体した軍隊の倉庫などを狙つて、混亂や無法地帯に、解体した軍隊の残りものを失敬した。しかし、全体としては微々たる獲物でした。

日本の敗戦で中国は形の上では戦勝国になつて、やつと、日本にいるわれわれの自由度も緩み、生活すべて変わりだした。しかし食糧事情はさらに逼迫した。それまで植民地から食糧を少しでも収奪つたが、広く外地に進出した日本軍隊と在留民、軍属らが一挙に混乱した本土に引き上げたための人口増加と農民の供出米減少によるものであつた。

戦後の食糧難

当時の京大学生食堂は、一日七八〇カロリー、外食券一〇〇〇カロリーを提供したが、これは基礎代謝にも足らず、命を維持することは難しく、なんらかのルートで補給しなければならなかつた。日本の友人たちはなんども親許に帰郷し、一日七八〇〇カロリーを摂っていたと私の日記に書いてある。ギリギリの生活であった。

寮では同学委員会は戦勝国民をタテに市や左京区の区役所からタバコや砂糖、食用油などを毎月特配として手に入れ、一般市民が物資不足で喘いでいたなか、必需を上廻つた分はヤミに流し、度胸次第で儲けることもできた。さらに一部の寮生は幽霊人口をつくり、配給米をうけとつた。これも次第にエスカレートし、度胸のある奴は一〇人以上の幽霊集団を誕生させた。凄いのになると幽霊どうしが結婚し子を作つては幽霊を増やし

微妙な立場の人々がいた。利害が一致していたわけでもなく、連携があるわけでもなかつた。

余談だが、東京都知事は、第三国人やシナ人と公の場で云つて物議をかもしたこと再三で、記憶に新しい。

たという話もある。

今では白状できるが、高等学校（旧）のときから、数人の幽霊と食い扶持、五、六人（？）分と共に存し、配給の三合三勺（一合は一八〇〇〇）米を頂いていたのである。そのやり口は、全寮制で完全な自治と称して、卒業してほかに転出するとき、寮の謄写版で刷つた二セ転出証明書で移転手続きをし、転出先の区役所から配給米を獲得する。青春の大言壯語も食いもの足りてのことだつた。

話を京都に戻す。その筋の役人も警察も干渉しないので、余分の配給分は流していた。戦勝国民とされるこの連中とイザコザを起さない役人根性から、応急米という不得体の知れない名目の米をドン出した。京都市は市電の全線無料バス、映画館も同じサービスをしてくれた。私は肝っ玉が細く、機に鈍、才覚がないので、派手な連中を眺めるだけの格好だつたが、それでも、おこぼれには充分あづかつた。

また、どのようないるーとか知らないが、米軍の余剰物資や野戦食、衣類、チヨコ、バターなども配られた。ブカブカの米軍靴も立派な紳士靴に変わり、カラフルな物資投下用のナイロンパラシュートは

シャツや猿股に縫われた。寮生ちはいろいろな下着をつけ、紹介した日本の軍服、作業服、外仕立て直しの背広をきて様子がわかつた。ラッキー・ストライク、ヤメルなど洋モクに比べたら、回つた一本二円のヤミタバコは糞みみたいなものだった。一部の学生は米軍、家族専用の売店などを利用した。しかし、経済の混迷で日本の警察態勢は僅かの期間次第に立てなおつてきた。

ちよつとした生活の余裕が可能にしたのであった。他方、少数の者たちは日本に地盤を下ろす蓄財を始めている様子であった。

食うために配給品を闇に流して最低生活を維持するにも時間と労力が必要なので、大学の講義の方に身を入れないのも無理なかつた。親許の仕送りで慎ましい生活をしていた日本の学生からは顰蹙をかつた部分もあるかと思う。

学部によつていろいろであるが規制の厳しい日本社会での立身のルートは留学生にとつては、人生設計を困難にするいろいろな意味での国籍条項があり、私も光華寮にいる間はこの世界はしばらく忘れようとしたかもしれない。

乱世にも独立でき、自由な職種を選んだものも多い。もちろん寮生のなかには不埒なものもいるし、まじめなのもいるが、寮生には一々々々の光華寮があつて、お互に干渉は避けていた。

中国代表団と学生、大物の來訪
同学委員会は将来のため、いろ
いろな収入プランをもつて、何度も
上京し、中国代表団僑務処に生
活援助を頼んだが、検討中を繰り
返すばかり、ただ待ってくれ、ば
かりだった。そんななか、双十節
の国家祝日に国民党の大物が視察
と称して京都を訪れた。そして中
国学生に内外情勢について講演し
留学生は法律をまもり、日本の最
新技術を学んで、祖国の繁栄に貢

中国人の名義貸しをしたり、詐欺まがいの事件もあつた。ある京大の教授先生もお宅に留学生の表札をつけ、米軍に屋敷の接收を免れたという。

寮では五月には寮生の運動会、七七記念日には女專との合同での「たけくらべ」、双十節には女高師と一緒に中国近代劇「雷雨」を新聞会館で上演して喝采を浴びた。夏には水泳競技、秋には運動会、

京大のグランドもプールでも賑やかで、動いているのは留学生ばかりであった。

寮生も次第に落ち着き、各方面の交際もひろくなり、女の友達も誘いあつて訪ねてくれ、当時、貴重品だった砂糖やコーヒーでもてなし、寮は明々とライトが輝やき、瀟洒な不夜城に活気がみちた。国親とも通信も自由でなかつた寮生、若者たち、珍しい異国の青年との交際も始まつた。

女性たちも戦争の社会から解放され、珍しい異国の青年との交際も始まつた。中国青年は日本と違ひ、料理が上手で、男子厨房に入らず、などと強がらず、狭い寮室で一緒に餃子や中華料理をつくつては楽しんだ。私は山歩きも好きだつたので、近くの大文字山にはなんど登つたが、二〇分位で駆け上がつたものだ。

親しかった友達の手紙

献するように、という内容と覚えている。その夜、華僑総会と学生は東華菜館でこの高官を歓迎する盛大な宴会が催され、その席上、わが留学生の現状に支援を要請したが、これも検討すると云うにとどまつた。この大物も例にもれず京都華僑の生活調査を名目に個人旅行を楽しみ、華僑の献金をせしめただけで、我々に手を差し伸べることはなかつた。

この高官は一九四九年頃、人民解放軍による大陸解放で台湾に落ち延び、縁が切れた。

ソ連は参戦し、対日戦勝国になつたが、米国は原爆の力で、日本の単独占領権を手にいれ、軍を進駐し、現在も名目を変えては基地として統いている。こんな状況の

原 燈

中国代表団と学生、大物の来訪

もとでは、国民党中国ははじめから進駐どころでなく、留学生に関するることはできなかつた。

お前らは日本の占領地で、戦争に
関わらず、なんの貢献もせず、今
頃、この地で戦勝国民の面して利
益を得ようとするのは、とんでも
ないことだ、と心でほざいたに違
いない。在日留学生を犯人とし
て法廷にひきずり出せとか、収容
して再教育しろ、なかには銃殺し
ろとか、流れるいろいろな記事に
も留学生は慣れて沈黙していた。

そんななか、内戦で先が見えて
きた国民党高官たちは日本駐留の
チャンスを悪用し、連合国の名で
接收といっては、めぼしい金品を
ポケットに入れていたが、その余
りを学生の生活苦につけこみ、救
済金として解放地域に入らないよ
う、懐柔、買収を計ったのである。
まだ続く解放戦のさなかのことだ
学生には当時、在学中の中国留学
生に月々、五〇〇円の涙金を援助
金として支払うというのである。
このロイアルテスト含みの援助金
に留学生たちは何度も討議を重ね
た。この辺の詳細は覚えていない
が、どうもウヤウヤにおわつたよ
うだ。私もそろそろ自立できる環
境ができたということもあつた。

国民党中国には日本への軍事進駐の力はなかつたが、仮にでも実現したときの寮生の運命は、複雑なものであつたろう。中国留学生は中国代表部に絶望し、つよい憎悪と反感をもつた。

光華寮を根城に活躍

時がうつろい、寮生はそれぞれ独自の道を歩んだ。大学卒業のあとも住みついた。そして寮を根城に、大小の動きがあった。華僑社

た、一時、光華寮に住んで、一緒
だつた弟は、数年あと、中国周縦
理の高級知識分子の祖国建設の呼
び掛けに応えて帰国し、電力建設
に大いに活躍するが、あとで文革
に巻き込まれる。

会、日本の進歩的勢力との連携、文化グループも生まれて活躍し、あの建物はだれのものか

会、日本の進歩的勢力との連携、文化グループも生まれて活躍し、

あの建物はだれのものか

ないことだ、と心でほざいたに違いない。在日留学生を犯罪人として法廷にひきずり出せとか、収容して再教育しろ、なかには銃殺したりとか、流れるいろいろな記事にも留学生は貫れて沈黙していた。

そんななか、内戦で先が見えてきた国民党高官たちは日本駐留のチャンスを悪用し、連合国の大統領として受けといつては、めぼしい金品をポケットに入れていたが、その余りを学生の生活苦につけこみ、救済金として解放地域に入らないよ

を思うと、まさに危機一発という外はない。留学生の集中教育の本当の目的はなんだつたのか。決戦の場での異分子抹殺にあるといふのもウソでないような気がした。戦時日本が集合教育ともなると、泳がせている人質の意味もあつたろう。本土決戦でパニックの混乱状態で、邪魔な外国人を始末するために、集合教育を名目にして、集めたのではないか。思うほどに真実味がある。

または消えた。ちよつと思い出し
ても、中日学生文化協会、中国国
旗侮辱事件、華僑福祉促進会、華
僑新民主協会、不当課税反対同盟
台湾民主自治同盟、京都同学会、
華僑民報、華僑文化研究会、新華
僑、民族独立のタベ、中日文化研
究会など、大小多くのテーマがあ
った。個人にとつてもエピソード
は多い。早々帰国して活躍してい
る人、亡くなつた人も。東京でも
京都でも、寮のOB会はあり、旧
憶を温める集まりがある。ところ

そこで残る帰属問題である。戦争も終わりに近い一九四五年、京都大学は民間の所有者から土地、建物を賃借して光華寮を設置した。それから四ヶ月目、終戦で中国留学生の集合教育は廃止。京大は寮生が住みついたまま、借料を払えなくなつたので、中国駐日代表団（日華平和条約発効後は中華民国大使館）に購入を働きかけた。そして一九五〇年、中華民国が光華寮を購入、所有権移転登記も済ませたが、三ヶ月たつて、中

う、懷柔、買収を計つたのである。まだ続く解放戦のさなかのことだ。学生には当時、在学中の中国留学生に月々、五〇〇円の涙金を援助金として支払うというのである。

卒業し自立したものは、寮から離れ、人数も減ったが、替わって当初の集合教育でない、知らない中国青年たちが部屋を占拠していくつた。

が肝心の寮の建物のことになると
世紀が代つても、現在までそのま
まだ。光華寮の名を口にしても、
その存在に実体がない。その場所
には、住人はいるが、手も入れず

華人民共和国を支持する寮生の一部が中華民国の管理を阻害したとして、明渡しの訴えを京都地裁に提出した。私は信州、佐久病院で胸部外科に従事していた頃で、寮

その後、みせかけの平和は短く朝鮮戦争が始まり、相次ぐ、ベトナム戦争の大きなアメリカの戦争の兵站基地として日本は高度成長を遂げていったことは周知のことである。

荒れ果てたまま、所有権問題が絡んでどうにもならない。

蛇足ながら、私は大学卒業の頃は、国鉄労組の労働量の調査、「食べられるだけの賃金」闘争に関係して、寮と距離を置いていた。ま

のことを思い出すこともなかつた
一九七二年には、日本政府は日中
共同声明により中華人民共和国は
中国の唯一の合法政府と認めるこ
ととなつた。これをうけて、光華
寮は日中戦争中、日本が略奪した

(7) 2004年1月15日

燎原

物品を売却した資金で中華民国駐日代表団が買つた寮施設で、「公有、公共財産」で、中華人民共和国の承認で所有権は同政府に移つたと判断された。

ところが、一九八二年、大阪高裁は内戦や革命で政府が完全に交代したときは、前の政府が持つてゐる財産は全体的に新政府にうけ継がれるが、この場合は前の政府、つまり台湾が局地的にまだ残存し、事実上の政府として地域で、支配を続けているという不完全承継の場合で、第三国の日本にある前の台湾の所有権は失われないと、原判決をとり消したのである。京都地裁、大阪地裁は、上記大阪高裁の判断を支持し、旧政府（台湾）に権利が存続するものとしている。

ついに、華僑は一九八七年、最高裁に上訴した。日中両国関係の基本的原則に関わる問題が、裁判の形式で二つの中国を作ることで、中国は日中共同声明には違反しているとして、なり行きを見守つてゐるという。華僑、殘る寮生からは現状を開けるよう、最高裁に上訴したが、その文書は審議もなく、その表紙。

〔最高裁 上告人 干炳寰（故人）
外七名 被上告人 台湾（本訴提
起時中華民国）〕と書かれている。

最高裁でそのまま眠つて一六年が経過している。

おわりに

この住人は入れ替わつて、老朽化はひどく、中国政府は特別支出金をだし、修繕し留学生の宿舎としてなんとか使用してきた。帰属について中国、台湾という同じ民族がメンツで争うと、一時はマスコミの結構な餌食で連日紙面を賑わした。今は一般的な話題に上ることはないが、國際狀況から何時まで放置できることだろうか。

入れ替わり、空いては入るで、いわゆる集団教育といつて集められた頃の人々は殆どいない。だから不法入居と云う向きもあるが、始めから法などはなかつた。

先日、通りがかりに覗いて見たところ、玄関横のヒマラヤ杉は枝が伸び、隣との塀は光をさえぎり、玄関は暗い、廊下にはゴミが堆積している。それでも居住している人は自分のエリアだけを守つて、住居としては機能しているのである。昔に戻るが、戦時中、日本軍が大陸からの略奪品の売却金で作ったという事実は私の脳裏から消えないし、根が深く、絡んで、あの十七年戦争（日中）の後遺はこんな所にもあつて、いつまでも続

いているのである。

京都、神戸、東京その外で有志によるO.B.-OG会で光華寮をネタに食事しながらの懇談がなされ、想い出話しが交わされる。光華寮歌をつくった人もいるときくが、近況報告となると、傷みに何

争われて、現在まで五八年、当時の寮生の生残りは我々を含め、確実に高齢後期の年代に達した。

（どう ていと
医師 城陽市在住）

自衛官の自殺増加について

西谷 宣雄

昨年七月十七日、しんぶん「赤旗」は、衆議院議員小沢和秋氏が十六日、陸・海・空三自衛隊の自殺者が急増している問題をただしを報告している。防衛庁によると、自殺の原因是「不明」がもつとも多く、次いで、借財・病苦・職務等となつてゐるとされてゐる。三〇歳代前半一般男性の自殺者が一〇万人あたり二八人に對し、自衛隊は三四人と、かなり高率の数字を示してゐる等、事の重

得て、同日紙に掲載された表「過去一〇年間の自衛官自殺者数」（注、各年度の自殺者数については二〇〇三年七月七日現在で防衛庁が把握しているもの）を参照しながら、労働衛生学的に問題点の分析を試みたのである。

この表を見ても判る通り、二〇〇一年自殺者が特に増加し、自衛隊のイラク派遣等が実施されようとしている昨年七月すでに二九名となつてゐる。石破防衛庁長官も「このままでは三桁」ということになることを恐れていると言う状態であり、少なくとも自衛隊を専守防

燎原文芸

暴言

黒住 嘉輝

「レイプした学生は元気があつていい」自民党代議士太田なにがし

子を産まぬ女性は福祉の対象外「神の国日本」の前総理森

「非行児の親は市中引廻し打首に」青少年担当鴻池大臣
人権感覚かけらも持たぬ大臣が寄りて日本を危地へ追いやる

(くろすみ よしてる 西京区在住)

年度	過去10年間の自衛官自殺者数					計
	陸自	海自	空自	10	9	
1993	26	8	4	9	6	44
1994	38	6	13	17	11	53
1995	27					44
1996	26					61
1997	44					75
1998	46					62
1999	36					73
2000	43					59
2001	44					78
2002	50					78
2003	18					29

注:各年度の自殺者数については2003年7月7日現在で防衛庁が把握しているもの。

「じんぶん赤旗」7月17日付より
衛の立場にまで引き戻すべきであ

る。以上の様な体験を通じ、自衛隊

員の自殺増加についても、野党の
意見も聞いて真剣に考えなおして
もらいたいと考えられるのである。
(にしたに)のぶお

労働衛生コンサルタント
左京区在住)
憲法問題を横においても、自衛
隊の存在理由は国家防衛のためと
説明してきた。国家が攻撃を受けた時に唯唯諾諾とされるままに
いてはおれないだろうというので
ある。その主旨はいわゆる専守防
衛となる。当然だが海外派遣はあ
りえないことになる。

ところが自衛隊のイラク派遣が
決定された。この一月中には陸上
自衛隊がサマワに到着するはずだ。
それに先だって航空自衛隊がバグ
ダット飛行場に輸送機を派遣する
という。そこは「非戦闘地域」で
「安全」なのだそうだ。だが輸送
機はラセン状に運動して万一手の攻
撃をさけ、安全に着陸する方法を
講ずるという。本当に安全ならそ
んな特別な着陸をする必要はない。
弁解すればするほど尻が割れると

必要性を指摘しておきた
い。

編集後記

ら、きまた間隔で変針し、之字
を書くように航行するわけである。

そもそも自衛隊の存在は憲法に
違反している。だから憲法を改悪
して自衛隊を公然とした軍にしよ
うという策動がたえない。小泉首
相はそのような動向の先頭に立つ
ている。

憲法問題を横においても、自衛
隊の存在理由は国家防衛のためと
説明してきた。国家が攻撃を受けた時に唯唯諾諾とされるままに
いてはおれないだろうというので
ある。その主旨はいわゆる専守防
衛となる。当然だが海外派遣はあ
りえないことになる。

そんな危険をおかし、無理をして
でも自衛隊をイラクに派遣する
のは結局のところ日米同盟を重視
するという話になる。だが米英主
体のイラク攻撃は国連の賛成をえ
た行動ではない。日本はやがて國
際的な批判的になり、ひたすら日
米国の袖にすがるだけになるので
はないか。太平洋戦争の開戦決定
にいたる過程で日本はひたすら日
独伊三国同盟に忠実であろうとし
た。頼むべからざる気ままな国と
の同盟にふり回されていては、口
クな結果になるはずがあるまい。

戦争末期に海軍にいた筆者は、
之字運動という航海法を思い出さ
ずにおれない。まつ直ぐに進むと

潜水艦の魚雷攻撃を受けやすいか
講ずるという。本当に安全ならそ
んな特別な着陸をする必要はない。
弁解すればするほど尻が割れると

会および会報については、
左記へご連絡下さい。
〔事務局〕

〒六〇六一八一〇七

京都市左京区高野東開町

TEL FAX ○七五七二二一三八二三
一一一三 第三住宅
三三一三〇二 井手 幸喜